

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校読売自動車大学校		昭和57年3月30日		渡辺 宜男		〒 136-0071 (住所) 東京都江東区亀戸2丁目28番5号 (電話) 03-3685-6761		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 読売理工学院		昭和45年1月31日		理事長 藤本 昌弘		〒 112-0002 (住所) 東京都文京区小石川1-1-1 (電話) 03-3868-0411		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	自動車整備学科		平成18(2006)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	自動車社会の環境と安全を維持する優秀な自動車整備技術者を養成するため、現在の自動車業界に対応できる基本的な技術知識の教育を通じ、社会に貢献する人材の育成を行う。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	クラス担任が個別面談を行い、生活・就職等の指導をきめ細かく実施。更に臨床心理士のカウンセラーも置き、教員とも連携した支援体制を取っている。 ■主な資格 二級ガソリン自動車整備士(42/42名)、二級ジーゼル自動車整備士(41/42名)、電気自動車等の整備特別教育(41名/42名) ■中退率 11.8%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間	659 単位時間	190 単位時間	1,186 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
240 人	246 人		205 人		83 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		42 人					
	■就職希望者数(D)		34 人					
	■就職者数(E)		34 人					
	■地元就職者数(F)		23 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		68 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		81 %					
	■進学者数		5 人					
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
トヨタモビリティ東京、日産東京販売、関東マツダ他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
当該学科のホームページURL	https://yccm.ac.jp/dept_mechanics/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,035 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		296 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		1,919 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		296 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
	うち必修授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		5 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		10 人			
	計				15 人			
	上記①～⑤のうち、実務教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				15 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年、自動車に搭載される技術の高度化が速くなっているため、最新の教材を毎年導入し実習内容の見直しを実施するとともに、自動車関連企業の技術者を兼任教員として招聘し実践的な教育を実施している。また、本校卒業生の就職先である自動車整備業界が必要とする人材を育成するために、学科授業において企業の職員に講師を依頼して授業を実施している。企業等と学校間の意見交換の場を定期的に設けることにより、企業との連携を強化することで教育課程改善のPDCAサイクルをより充実させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務委員会において、カリキュラムを検討する上で、教育課程編成委員会の議事録を参考として教育内容の検討を行っており、企業での整備内容を把握することで実践的な教育内容の向上を図っている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2025/7/31

名 前	所 属	任期	種別
大森 淳	一般社団法人 東京都自動車整備振興会 教育部 部長代理	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
戸田博樹	トヨタ モビリティ東京株式会社	同上	③
渡辺 宜男	専門学校読売自動車大学校 校長	同上	—
北島 鎮夫	専門学校読売自動車大学校 校長補佐兼自動車整備学科 学科長	同上	—
鈴木 雄一郎	専門学校読売自動車大学校 1級整備学科 学科長	同上	—
山野辺 雅之	専門学校読売自動車大学校 教務委員長	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、7月と11月に開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和7年 7月 10日 15:30～16:30

第2回 令和7年11月19日 15:30～16:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

設備・工具については、1,2年生実習用共用工具、学科教室学生用椅子、実習用プロジェクタ、実習用車両保護具(フェンダカバー、シートカバー)、エンジン・クレーン修理2台、カー・リフトの修理2台、カー・リフト保守管理点検18台、710PC26台、学科教室のスクリーンを交換予定

教材については、FR実習車両2台、単体クラッチセット、単体T/Mを追加し、教育の充実を図る。

教育内容については、各企業の協力により新技術研修等を実施する予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の人材ニーズを活かし、自動車整備関連企業で必要となる実践的で専門的な能力を育成するために、実習・演習等の授業において組織的な企業等との連携により、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1・2年次の実習において、企業現場での実践的な整備作業の基本を教育することを目的とし、(3)に示すように、企業連携による実習を実施している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
電気装置1	バッテリー、電気回路	有限会社ウタシロ
二輪2	4気筒キャブレタの調整、FフォークのO・H	有限会社ウタシロ
E総合実習	トラブルシューティング	有限会社ウタシロ
シャシ5	オートマチックT/M、エアブレーキ、パワーステアリング	日産東京販売株式会社
シャシ3	トランスミッションの脱着	日産東京販売株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 自動車整備分野の実務に関する研修として、全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA)並びに自動車メーカー等 が開催する技術研修会に参加する。学生指導に関する研修として、東京都専修学校各種学校協会、東京都私学財団等の 開催する研修会に参加する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: スズキ 新技術講習	連携企業等: スズキ自販東京株式会社他	
期間: 7/18(木)	対象: 教員	
内容: スズキ車の新技術について		
研修名: 日産 新技術講習	連携企業等: 日産東京販売(株)他	
期間: 7/18(木)	対象: 教員	
内容: 日産車の新技術について		
研修名: マツダ 新技術講習	連携企業等: 関東マツダ(株)他	
期間: 9/30(月)	対象: 教員	
内容: マツダ車の新技術について		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 生き生きと働くためのハラスメント防止研修	連携企業等: 読売理工学院	
期間: 10月7日	対象: 教職員	
内容: 職場や教育現場におけるハラスメントのケーススタディ		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: スズキ 新技術講習	連携企業等: スズキ自販東京株式会社他	
期間: 7/15(火)	対象: 教員	
内容: スズキ車の新技術について		
研修名: ボッシュの車両診断器講習	連携企業等: ボッシュカーサービス他	
期間: 7/18(金)	対象: 教員	
内容: ボッシュの車両診断器について		
研修名: ダイハツ 新技術講習	連携企業等: ダイハツ東京株式会社他	
期間: 9/25(木)	対象: 教員	
内容: ダイハツ車の新技術について		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 車両診断講習会	連携企業等: 全国自動車大学校整備専門学校協会	
期間: 8月	対象: 教員	
内容: 国土交通省主催の法令改正に関する研修		
研修名: 整備主任者法令研修	連携企業等: 読売理工学院	
期間: 10月	対象: 教員	
内容: 整備主任者法令研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した自己評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。なお、評価の観点には次の項目による。
・自己評価の内容が適切かどうか
・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育人人材像は定められているか。学校における職業教育の特色はなにか。社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	目標等に沿った運営方針が策定されているか。運営方針に沿った事業計画が策定されているか。運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。
(3)教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか。資格取得率の向上が図られているか。退学率の低減が図られているか。
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。学生相談に関する体制は整備されているか。学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。
(7)学生の受入れ募集	学生募集は、適性に行われているか。学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。財務について会計監査が適性に行われているか。
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか。留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

基準項目毎に4段階で評価を報告書としてまとめ、評価内容や提起いただいた課題をもとに改善を行っている。学生への緊急連絡法の見直しや地域に対するボランティア活動を実施するなどの実績がある。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2025/7/31

名 前	所 属	任期	種別
戸田博樹	トヨタ モビリティ東京株式会社	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	企業
戸辺 祥太	亀戸二丁目町会	同上	地域
矢田 泰久	読売自動車大学校同窓会 会長	同上	卒業生
布宮 廣一	1級整備学科3年 保護者	同上	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html
公表時期: 令和7年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学生便覧やカリキュラム、年間予定を配布すると共に、学科の教育・就職活動の現状を報告することで把握いただいている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	同左
(2)各学科等の教育	同左
(3)教職員	同左
(4)キャリア教育・実践的職業教育	同左
(5)様々な教育活動・教育環境	同左
(6)学生の生活支援	同左
(7)学生納付金・修学支援	同左
(8)学校の財務	同左
(9)学校評価	同左
(10)国際連携の状況	同左
(11)その他	同左

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備学科) 2025年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		PCプラク ティス	顧客データの管理、伝票の作成など、多くの 仕事にパソコンを利用しており、整備士もパ ソコンを使いこなす必要がある。表計算ソフト(Excel)の使用法を中心に講義する。	1 前	18			○		○			○	
2		○		ビ ジ ネ ス マ ナー	社会人として必要な一般的常識、マナーに ついて講義する。また、自動車販売会社の 人事担当者による講義を実施し、企業が求 める人材を把握する。	1 後	17			○		○		○		
3			○	日本語 1	留学生を対象とし、聴解・読解・会話につ いて、総合的な日本語能力の向上を目的に 授業を実施する。	1 前	22			○		○			○	
4			○	日本語 2	継続して日本語教育の必要である留学生を 対象とし、日本語能力の向上を目的に授業 を行う。	1 後	20			○		○			○	
5			○	日本語 3	継続して日本語教育の必要である留学生を 対象とし、日本語能力の向上を目的に授業 を行う。	2 前	22			○		○			○	
6			○	日本語 4	継続して日本語教育の必要である留学生を 対象とし、日本語能力の向上を目的に授業 を行う。	2 後	17			○		○			○	
7	○			安全科学	自動車整備士が知っておくべき安全の知識 を修得する。作業中の安全、災害時の対 応、損害を受けた場合の保証の問題等につ いて講義する。	1 前	21			○		○		○		
8	○			図学基礎	自動車の構造、機能等を理解するためには 図面を読みとる能力が必要となる。図面に 対する約束ごとを講義し、プリントに従っ て演習を行う。	1 前	18			○		○		○		
9	○			自動車概論	将来自動車関連産業にかかわる者にとっ て必要な自動車の教養科目であり、自動 車産業の成り立ちから、車社会の問題、自 動車に係わる環境問題について講義する。	1 前	22			○		○		○		
10	○			燃料と油脂	原油から精製されるガソリンや軽油、LPG等 の燃料や、部品の潤滑に使用される潤滑油 等、自動車の走行に重要な働きをする燃 料・油脂の精製法や特性等を理解する。	1 前	22			○		○		○		
11	○			自動車材料	自動車部品は、要求される性質で、金属、 非金属、ゴム、ガラス、プラスチックなど を使い分けている。要求される性質とそれ に適合した材料及びその性質について講義 する。	2 前	17			○		○		○		
12	○			電気工学	自動車の中で、重要な役目を担う電気装置 を理解するために、電気磁気の基礎、直 流、交流回路の基本的な理論を講義する。	1 前	21			○		○		○		
13	○			自動車工学 1	自動車に関する基本的な構造や走行・停止 の原理などを理解し、機械工学の基礎的な 知識を学ぶ。	1 前	21			○		○		○		

14	○		自動車工学 2	計算の基本や単位の換算について、解説と演習による復習を行った後、自動車に関する基本的な機械工学計算について理解する。	1 後	20		○			○		○						
15	○		自動車工学 3	二級国家試験を念頭に置き、機械工学の基本を復習し、応用計算の講義と演習を行う。	2 前	18		○			○		○						
16	○		自動車工学 4	二級国家試験の工学問題について演習と解説を行い、機械工学の知識と応用計算力の向上を目指す。	2 後	39		○			○		○						
17	○		エンジン・1	ガソリン・エンジン、ディーゼル・エンジンの基本的な構造・作動について講義する。	1 前	21		○			○		○						
18	○		シャシ・ボディ 1	自動車の基本運動性能である「走る、曲がる、止まる」の概要について、その機構の基本的な構造作動を講義する。	1 前	22		○			○		○						
19	○		カー・エレクトロニクス 1	自動車の電気装置のうち、エンジン電装品である、バッテリー、スタータ、オルタネータ等の基本を講義する。	1 前	21		○			○		○						
20	○		ガソリン・エンジン 2	ガソリン・エンジン内部の各構成部品の構造・役割を理解し、電子制御式燃料噴射装置やキャブレターなどの燃料装置の構造・機能について学ぶ。	1 後	20		○			○		○						
21	○		ディーゼル・エンジン 2	自動車用ディーゼルエンジンの燃料装置を中心に、ガソリン・エンジンと比較しながら、その構造と作動を理解する。	1 後	20		○			○		○						
22	○		シャシ・ボディ 2	動力伝達装置のマニュアル・トランスミッション、デフレンシャル、また、制動装置のドラム・ブレーキ、ディスク・ブレーキなどの構造と作動を理解する。	1 後	20		○			○		○						
23	○		カー・エレクトロニクス 2	始動装置・充電装置・点火装置の基本回路について解説する。また、ライトなどの車体電気装置にも触れ、電気装置に関するトラブル・シューティングの知識についても学ぶ。	1 後	20		○			○		○						
24	○		二輪基礎	燃料装置やサスペンション等について、二輪車に特有な装置の構造作動を解説する。	1 後	20		○			○		○						
25	○		ガソリン・エンジン 3	二級自動車整備士にとって必要となる、最新型エンジンの技術について、その目的や必要性を含めて講義する。	2 前	18		○			○		○						
26	○		ディーゼル・エンジン 3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年問題視されているディーゼル・エンジン排気ガス(PM、黒煙等)や新技術(コモンレールエンジン)について講義する。	2 前	17		○			○		○						
27	○		シャシ・ボディ 3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、近年進歩がめざましい電子制御を応用した走行装置について講義する。	2 前	18		○			○		○						
28	○		カー・エレクトロニクス 3	二級自動車整備士にとって必要な知識である、各電気装置の特性やトラブル・シューティングについて講義する。	2 前	17		○			○		○						
29	○		ガソリン・エンジン 4	ガソリン・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2 後	38		○			○		○						

30	○		ジーゼル・エンジン 4	ジーゼル・エンジンに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、エンジンの構造作動に関する理解を深める。	2 後	39		○			○		○				
31	○		シャシ・ボディ 4	シャシ・ボディに関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、シャシに関する装置の構造作動に関する理解を深める。	2 後	38		○			○		○				
32	○		カー・エレクトロニクス 4	電気装置に関する二級自動車整備士試験問題の演習と解説を通し、電気装置の回路・作動に関する理解を深める。	2 後	38		○			○		○				
33	○		総合整備法	今まで学だ専門科目の総仕上げとして、二級自動車整備士国家試験に 100%合格できる実力を身につけることを目的とし、二級問題を中心に講義と演習を行う。	2 後半	73			○		○		○				
34	○		車検・法規 1	自動車に関する法律の解説で、道路運送車両法、道路運送車両施行規則、自動車点検基準などを理解する。	2 前	18		○			○		○				
35	○		車検・法規 2	新規・継続検査の法令、道路運送車両法の保安基準、通達等を理解する。又、検査の実施方法、検査機器の構造、作動及び測定要領、検査実施上の注意事項を理解する。	2 後	38		○			○		○				
36	○		エンジン 1	小型ガソリン・エンジンのオーバー・ホール	1 前	53					○	○		○			
37	○		シャシ 1	基礎作業、日常点検、動力伝達装置（T/M、クラッチ）	1 前	53					○	○		○			
38	○		電気装置 1	バッテリー、単体車体電装品	1 前	53					○	○		○			○
39	○		基礎作業	ノギス、マイクロ・メータ測定法、車両日常点検、基礎工作作業	1 前	53					○	○		○			
40	○		二輪 1	4サイクルエンジンのオーバー・ホール、動力伝達装置	1 後上	68					○	○		○			
41	○		シャシ 2	ブレーキ装置、走行装置（ステアリング、タイヤ、D/F）	1 後上	68					○	○		○			
42	○		シャシ 3	MT車のトランスミッション脱着、トランス・アキスル	1 後上	68					○	○		○			○
43	○		エンジン 2	ジーゼル・エンジンのオーバー・ホール、測定作業、列型ポンプ	1 後上	68					○	○		○			
44	○		電気装置 2	始動装置、充電装置	1 後下	30					○	○		○			○
45	○		電気装置 3	エンジン電装品、オシロスコープの取り扱い	1 後下	30					○	○		○			

46	○		エンジン 3	電子制御燃料噴射装置その 1	1 後下	30				○	○		○		
47	○		シャシ 4	実車ブレーキのオーバー・ホール、LSD	1 後下	30				○	○		○		
48	○		エンジン 4	実車エンジンの脱着、過給機	2 前	76				○	○		○		
49	○		エンジン 5	電子制御式燃料噴射装置その 2、トラブルシュート	2 前	76				○	○		○		
50	○		シャシ 5	A T の構造作動、エア・ブレーキ、パワーステアリング	2 前	76				○	○		○		○
51	○		シャシ 6	車検・定期点検、4 輪ホイール・アライメント	2 前	76				○	○	○	○		
52	○		二輪 2	4 気筒用キャブレターの脱着、点検、調整。フロントフォークのオーバー・ホール	2 後上	53				○	○		○		○
53	○		電気装置 4	電装品の回路と作動、トラブルシュート、エアコン	2 後上	53				○	○		○		
54	○		エンジン 6	コモンレール、インジェクション・ポンプ、電子制御装置	2 後上	53				○	○		○		
55	○		エンジン 7	台上エンジン・オーバーホール、V6 エンジン、水平対向エンジン、ロータリエンジン	2 後上	53				○	○		○		
56	○		G 総合実習	電子制御式燃料噴射装置その 3	2 後下	15				○	○		○		
57	○		C 総合実習	A T の総合点検	2 後下	15				○	○		○		
58	○		E 総合実習	トラブルシューティング	2 後下	15				○	○		○		○
59	○		E 総合実習 2	バッテリー、スタータ、オルタネータの総合点検	2 後下	15				○	○		○		
合計				59 科目			2035.4 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必修科目をすべて修得。1 年修了時限定科目 1 科目以上 2 年修了時に学科 572h 以上、実習 1143h 以上を修得。 ※2025 年度以前、既に在籍する者に係る進級・卒業基準は従前の例による。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の 3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。